

2023年
新春号
Vol.36

幸義会だより

岡山東部脳神経外科



令和5年初春を迎えて

医療法人 幸義会 岡山東部脳神経外科 理事長 滝澤 貴昭



明けましておめでとうございます。岡山東部脳神経外科は、東区瀬戸町(当時は赤磐郡)に最初の診療所を開設してから、今年の春に25年を迎えます。また北区牟佐に二つ目の診療所を開設して20年、そこを改編して病院になってから7年を迎えました。岡山市東部・赤磐・東備地域に根ざした、脳神経疾患専門の医療機関を開設してから四半世紀を迎える事が出来たことを大変嬉しく思います。これも地域住民の皆様のご支援と、この地域で医療・福祉・介護体制を支えて下さっている専門家の方々のおかげと感謝申し上げます。

当院での延べ手術件数はもうすぐ5000件に到達します。中でも脳動脈瘤手術(開頭・血管内)は1143件、脳腫瘍や頸動脈血栓内膜剥離術も300件弱となりました。また当院が得意とする片側顔面痙攣や三叉神経痛に対する微小血管減圧術は125件でした。最近は専門医を招聘して負担の少ない腰椎内視鏡手術なども開始しております。引き続き、脳卒中早期から一年365日休みのない集中的なリハビリ、認知症予防やフレイル進行予防のためのデイケアなどを含めて、地方にあっても高い医療水準を維持して地域の皆様の安心につなげることができればと願っております。

三年間に及ぶ新型コロナウイルス感染症との戦いにおいては、当院に常勤の内科医が不在であること、脳卒中や頭部外傷などの救急疾患を受け入れる最後の砦として、敢えてコロナ患者様を受け入れない決断をいたしました。それは、コロナ医療から逃避したのではなく、通常の救急医療として救わなければならない専門的疾患の方々の治療を継続

するためでした。したがって、新型コロナウイルス感染爆発時には、大病院救命救急センターなどに搬送された患者様を翌日に当院へ転院で受け入れるケースなどが相次ぎました。そのような中で残念ながら、令和4年8月にはさすがに職員や入院患者様の散発的感染が相次ぎ救急の受け入れや予定手術に影響が出ました。入院中の方には抗ウイルス薬投与でそのまま当院で療養していただくこととなり、職員も毎日のように抗原検査やPCR検査を受けるなどかなり煩雑でしたが、いわゆる燃え尽き症候群になるようなスタッフを出さないで乗り切ることが出来ました。一方で、当院ではスタッフ数の多さと、スペースの広いことを利用して、ワクチン接種などは積極的に参加させていたできました。また赤磐市や岡山市主催の集団接種会場にも複数回出務してきました。

最近、日本国内の医療機関で身代金要求のサイバー犯罪、ランサムウェアに攻撃される事例が相次いでいます。当院では約一年前から、電子カルテと他のネットワーク機器を一切遮断し、また職員が電子カルテに他のデバイスを接続することを厳しく制限しています。さらに、そのための保険にも加入して、機会あるたびに専門家から指導を受けています。電子カルテなのに、外来医師の手もとに紙のカルテが置いてあることに違和感をお持ちの方もあることでしょうか。また当院の職員でさえ、なんでそんな無駄なことをするのかと尋ねることがあります。前回の処方箋を紙のカルテの裏表紙に入れておき、また今回の診察時に前回の電子カルテの内容をプリントして、次回診察時までは紙カルテに挟んでおります。これはとてもアナログな手法ですが、ランサムウェア犯罪のみではなく、水害などで電子機器が使えなくなってもとりあえずの患者様情報と最新の処方箋などは直ちに把握でき、診療体制に支障を来しにくいというところで、事業の継続性の観点で行っています。



当院の電子カルテはクラウド型と言って、サーバーは業者で一括管理されており、端末のPCさえ普及すれば回復は早いはずなのですが、銀行ATMがソフトウェアの不具合で全国的に数日使えないことが起こった事例のようなことが、全国の医療機関で起こる可能性もありえないとは言いきれません。以前にも、このBCPについて幸義会だよりに書かせていただきましたが、すでに介護施設では、その整備が義務付けられることとなりました。医療機関も数年以内に義務付けられる予定であり、医師会でも各種の勉強会が予定されています。医師のみでなく、より多くのスタッフが危機意識を持って準備に当たってくれることを期待しています。

さて、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、オンライン診療という手段が保険診療でも認められるようになりました。いざ当院でも取り入れていかねばならないと考えています。それは、高齢となれば自分で車の運転ができなくなり、遠方の専門医療機関にまで通うことが困難となる方が増えていることと、地方では公共交通機関も廃止・廃線などが相次ぎ、代替の移動手段の確保も困難となりつつあることです。現役世代の方達にとっては、予約制で待ち時間も少なく、昼間の休憩時間や業務終了後の受診も想定できるでしょう。

私は、月に2回、赤磐市北部の僻地診療所で総合診療をおこなっています。ほとんどが80歳代、90歳代でも比較のお元気な方達もかなりおられます。そのような方々のほとんどは、一人暮らし、または高齢の夫婦二人暮らしです。月に一回ずつ来院され、午前中に30人程度診察します。予定している方がお見えにならない場合は、電話をかけて安否確認せねばなりません。待合室での患者さん達どうしの雑談にも聞き耳をたて、診察室に入ってから来る歩き方を観察し、顔色を見て、たわいもないことをお喋りします。脈をとり、聴診器を使い、足の腫れを診て、呂律が回っているのか、認知症は進んでいるのか、食事はできているのか、便秘していないか、畑で無理していないか、寒いお風呂場で熱すぎる湯に浸かっているのか、家族関係で悩んでいるのか、生きがいを持っているかな

などといった間に4時間が経ってしまします。皮膚科の薬も、目薬も症状にて処方します。その際に、自分から希望されることは多くはなく、目が赤くて目脂が多いけどいつからですか、この脇の下のかぶれたような皮膚はいつからなのとか、こちらからたずねて処方します。時には、心不全兆候や下肢深部静脈血栓症などが疑われれば、ご本人が嫌がるのを説得して、家族と連絡を取り専門医への受診を促します。また、通常の岡山東部脳神経外科の診察でも、私だけではなく、隣の診察室からも、「先生の顔を見られて、こうやって話ができただけで元気が出て、また一ヶ月頑張れます」というような声があれば聞かえてきます。高齢者では、オンライン診療に必要な機器の接続というようなハードの問題以上に、克服しなければならぬ課題がたくさんあると感じますが、少しずつ経験していかないといけないのでしょうか。

私は、若い頃から、世界に通用する研究や最先端の手術技術の習得を心掛ける一方で、聞く耳を持つ医者として患者様に向き合うことをモットーとしてきました。臨床医としてはもう10年も働けるかなというのが実感ですが、身体と脳がもつ以上、また周囲のスタッフからもうええ加減辞めたらと言われるまでは、現場に立ちたいと考えていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



職員が手に持っている習字や絵馬は通所リハビリテーションのご利用者様の作品です

研修医紹介

けいゆう病院研修医 小野 楓



神奈川県小野のけいゆう病院より参りました、初期臨床研修医の小野楓と申します。9月の1ヶ月間、貴院にて研修させていただきました。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、このように臨床研修の場を提供していただきましたこと、この場をお借りして深く感謝申し上げます。

私の勤めるけいゆう病院では常勤の脳神経外科医がおらず、急性期の脳梗塞といった、頭蓋内病変の患者さんの診療にあたることは滅多にありません。貴院での研修開始当初は何をどうするのが正解なのか、どれくらいのスピード感をもって診療を行なっていけばいいのかなど、分からないことだらけでした。それでも、先生方やコメディカルの方々が優しく温かく接してくださり、様々なことを丁寧に教えてくださり、この1ヶ月間は大変勉強になる、充実した時間を過ごすことが出来ました。

岡山の土地を訪れたのは今回が初めてでしたが、自然豊かな土地柄もとても魅力的でした。毎日通勤で使うバスの車内から見える景色は本当に美しく、川の水面に反射する朝日や、赤く染まった夕焼け空など、素敵な景色を目に焼き付けながら毎日通勤できたことも、良い思い出となりました。

1ヶ月間と短い間ではありましたが、貴院にて学んだことを糧に、これからも精進して参りたいと思います。またどこかで皆様と共に働く機会がありましたら幸いです。

けいゆう病院研修医 山中 優



12月の1ヶ月間お世話になりました、けいゆう病院初期研修医2年目の山中優と申します。まずはじめに新型コロナウイルスの対応もありお忙しい中、今年度も私どもに研修の場を与えて下さったこと、心より御礼申し上げます。これを執筆しているのは

研修の最終週になりますが、振り返ると病院の皆さまに温かく迎えて頂き、楽しく充実した研修生活を送ることができてとても感謝しております。

この1ヶ月、脳血管疾患の勉強はもちろん、都市部と違った仁美診療所での地域医療の様子なども見学することができ大変勉強になりました。手術や手技の見学は特に興味深く、全身麻酔下の血管内治療に入らせて頂いた際には、難しい角度からの操作が必要な瘤にガイドワイヤーが到達した時思わず「おおっ」と声を出して驚き喜んでしまいました。

研修外で心に残っているのは、通勤に使った宇野バスから見た朝の風景です。旭川沿いを走り大原橋を通過していく経路はとてものかで、空も澄んでいて朝日に照らされた景色はとても綺麗で、ぼんやり外を眺めるのが毎日の楽しみでした。

またいつか岡山に遊びに来たいと思います。ありがとうございました。

けいゆう病院研修医 春原 誠



2022年1月より1ヶ月間、地域医療研修でお世話になりました、初期臨床研修医の春原誠と申します。2020年に東邦大学を卒業後、神奈川県小野のけいゆう病院で初期臨床研修医として勤務しております。2022年1月現在、新型コロナウイルスの第6波の影響により、世間の状況は目まぐるしく変化しています。その様な中で貴重な研修の機会をご提供頂き、誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。今回の研修を通して、脳外科疾患における診断や治療について、多くの症例を経験させていただき、医師としてステップアップできた実感しております。またスタッフの方々はどうしても優しさに溢れており、特に患者さんへの声かけや心遣いなど、温かい人間関係を育む心遣いをされていたことが印象的でした。こうして1ヶ月間を振り返ると、そのどれもがフレッシュな経験で、多くを学ばせていただき、大変充実した研修を行うことができました。これからもけいゆう病院の研修医が訪れることと思いますが、今後ともどうぞよろしくお願いたします。

けいゆう病院研修医 青井裕一郎



2022年2月に研修でお世話になりました、青井裕一郎です。先生方を始め、職員の皆様に温かいご指導を頂き、有意義な1ヶ月を過ごすることができました。この経験を活かして、春から内科専攻医として日々、精進したいと思っています。ありがとうございました。

さて話は変わりますが、職員の方から、コロナウイルスの流行が落ち着いた頃にはぜひ横浜観光がしたいと伺いました。おすすめのお店についてご質問頂きましたので、「まいう」でお馴染みの石塚英彦さんを、このハンバークが世界一美味しい！と唸らせた、伝説のお店をご紹介します。

【ハングリータイガー 横浜ハンマーヘッド店】ハングリータイガーは創業50年以上、神奈川県内に12店舗を構える老舗ハンバークレストランです。県民であれば知らない人はいない人気店であり、ハマっ子のソウルフードとして皆に愛されています。かくいう私も小さな頃から通い詰め、長野に住んでいた大学時代も、このハンバーク恋しきによく帰省したものです。一番のおすすりはオリジナルハンバーク。熱々の鉄板で運ばれてくる、つなぎ無し炭火焼き牛肉100%のハンバークは非常に肉肉しくジューシー、秘伝のソースとも相性抜群です。付け合せのベイクドポテトも美味しく、ボリュームの面でも満足いただけるかと思えます。10数店舗ある中でも、特におすすりなのは横浜ハンマーヘッド店です。なんととってもロケーションが素晴らしく、横浜ランドマークタワーはもちろん、大観覧車やベイブリッジなど横浜のシンボルマークを一望することができ有数のスポットとなっています。また、赤レンガ倉庫や山下公園といったメジャーな観光地から徒歩圏内であり、旅の終着点として最適です。店内は、小さなお子さん連れのご家族やカップル、ご年配の方まで幅広い客層で賑わっており、「これぞ横浜」という夜景を眺めながら食べるハンバークはまさに贅の極み。店外のデッキにも自由にすることができ、腹ごしらえをした後に、横浜の夜景をバックに記念撮影されるのも良いかと思えます。是非横浜にいらした際には、ハングリータイガーへ足を運んでみてください。

けいゆう病院研修医 荒木 隆宏



この1ヶ月間は全てが新鮮でした。初めての脳神経外科研修であること、訪れたことのない岡山で生活するという点、これらは分からないことと溢れる毎日でした。

研修内容として主に東部脳神経外科での救急対応や手術に参加させていただくことで脳神経領域の知識、先生方の考え方を学びました。また、関連施設でリハビリテーションやガンマナイフの見学をして施設間の連携も感じることができました。仁美診療所では滝澤理事長の外来や吉井先生の往診に参加させていただき、地域の人を背景から理解しオーダーメイドで治療計画を立て、人の一生に責任を持つというまざしく人を診る医療を体感致しました。

また、岡山での生活は不慣れでしたが便利な都市部から数分で美しい川、山に出会うことができ毎日綺麗な空を見ることのできる環境に感動し岡山がすぐに大好きになりました。

こうした新しい環境の中でも楽しみながら実り多き研修になったのは日頃レクチャーしてくださった先生方、お世話になった各施設のスタッフの方々の温かいコミュニケーションのおかげだと強く感じます。本当にありがとうございました。

けいゆう病院研修医 日下部裕胤



地域研修として一か月間大変お世話になりました。大学病院でも

なく、市中の総合病院でもなく、しかし時に生死を分ける選択を迫られる脳神経外科での診療をどのようにして行っているのか。また、どのようにして地域医療をしているのかを見て考えることができました。

それとともに、普段の研修病院にはない脳神経外科の先生方がどのような診療をしているのかを学ぶことができました。

研修内容は病棟・救急・手術・訪問診療や通所リハビリテーションなど多岐に渡って多くの内容を見ることで、とても実のある一か月間でした。

浮田先生をはじめとした先生方やコメディカル、事務関連の方々のおかげで慣れない環境下でものびのびと研修させていただきました。岡山東部脳神経外科での経験を今後の医師としての人生に活かしていきたいと思えます。

一か月間お世話になりました。

永年勤続表彰者

2022年度、永年勤続者の紹介をさせていただきます。

勤続15年

保洋子
美咲子
石田千田

勤続10年

中央貴子
未結智裕
杉本阿井
仲原土井



2022年 敬老会

岡山東部脳神経外科通所リハビリテーションでは随時問い合わせ、見学を受けております。086-952-5250 石田まで2023年もどうぞよろしくお願い致します。